

支援のプロを、  
世界の現場へ

## \*ピースウィンズ・ショップから\*

新商品・有機水出しコーヒーをお楽しみください!

### 夏にさわやかお手軽に本格的アイスコーヒー

今年の夏は節電モードで会社でもアロハシャツを推奨しているところもあるそうですが、みなさんはどのような節電対策をされてますか？ ゴーヤを活用した「ゴーヤカーテン」も巷では話題ですが、自然を生かした涼しいものですね。

さて、ピースウィンズ・ショップでは暑い夏にぴったりの新商品・有機水出しアイスコーヒーを絶賛発売中です。これまでにご要望が多かった「夏はやっぱりアイスコーヒーが飲みたい！」という声にお応えして、今回初めて水出しコーヒーを作りました。香り高くフルーティな東ティモール・ピースコーヒーの特長を生かし、水出しコーヒー用に深く煎ったコーヒーは、香ばしくのどごし爽やかな味わいです。袋を開けた瞬間に拡がる華やかな香りはジメジメした雰囲気もさわやかしてくれます。

作り方は、コーヒーの粉が入った紙パックを一晩水につけておくだけです。お手軽に本格的なアイスコーヒーが作れ、1袋（2パック入り）で約8杯お楽しみいただけます。これまでピースコーヒーをご愛飲いただいているみなさまも、ぜひ一度お試しください。

ご注文は、<http://www.peace-winds.org/shop/>

9/3までは、TEL03-6438-9403、FAX03-5786-7782。

9/5からは、TEL03-5213-4073、FAX03-3556-5772。

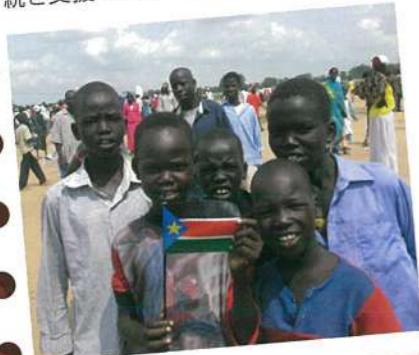
（事務所移転にともない、番号が変わります）

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの国際支援活動に活用されています。

### 支援地レポート

#### スーダン

2011年7月9日、南スーダンは独立国家として、新たな国づくりに向けて歩み始めました。PWJ事業地のボタウンでは、独立式典でスーダンの旗に代わり南スーダンの新しい旗が掲げられ、人びとは総立ちで独立を喜び合ってきました。一方で、いまだに政府の行政サービスが行き届いていない地方では、支援を必要とする人びとがいます。PWJは、水・衛生分野で引き続き支援を続けていく予定です。



#### イラク



#### スリランカ

内戦中には多くの校舎が壊されました。内戦が終わり、故郷へ帰還して生徒数が増え、教室が不足している問題に対応し、PWJは北部ムラティブ県の小学校3校で4つの校舎を建設しました。さらに、不足している学習用の資材（プロジェクター、地球儀など）の提供により、学校の再開支援を行いました。



### ピースウィンズ・ニュース

ピースコーヒーの故郷、東ティモール・エルメラ県レテフォホ村では、赤く熟したコーヒーの実の収穫期を迎えています。

コーヒー生産者に対するピースウィンズ・ジャパン（PWJ）の支援活動も今年で9年目、最初は8世帯から始まったこの取り組みも、昨年は344世帯にまで増加しました。

PWJの東ティモールでの活動は、1999年のポルトガルからの独立（実質的には強制支配されていたインドネシアからの独立）の賛否を問う住民投票を機に勃発した紛争の被災者に対する緊急支援から始まりました。

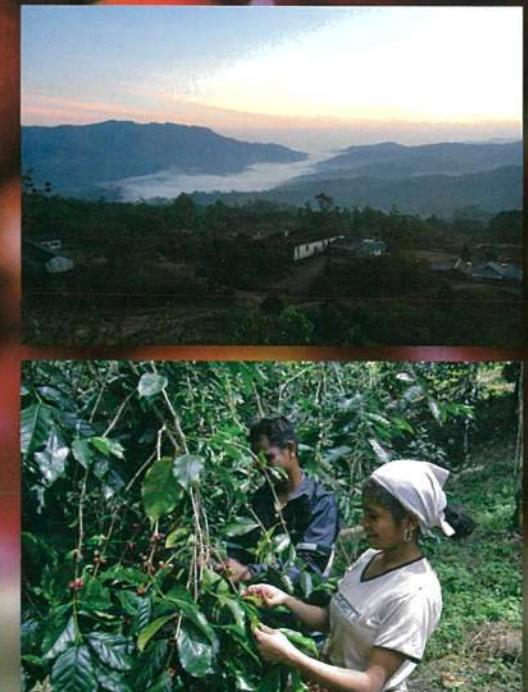
緊急支援も一段落した2003年からは復興開発支援へとシフトし、コーヒー生産者の収入の向上と安定を目標とした生産・加工の技術指導を開始しました。

それまでの東ティモールのコーヒー生産現場では、コーヒーの品質管理という概念自体がなく、山に生えているコーヒーの赤い実を摘み取ってそのまま買いたり会社に売っていました。そこでPWJでは、真っ赤に熟した実だけを摘み取り、味わいを落とす未完熟、過完熟の豆を選別し、最終的に収穫した豆を「バーチメント」（生豆の外側に乳白色の殻が付いた状態）にするまでの加工技術を指導し、今では多くの生産者の方たちが技術を習得しました。

こうした作業を経て高品質のコーヒーを生産すれば高い価格で販売できる、自分自身で豆に付加価値をつけることができるということがわかってきた生産者の方は、熱心にピースウィンズの指導する加工方法で今年も生産を行っています。その結果、コーヒーの専門家にも高い評価をいただけるコーヒーを生産できるようになりましたが、事業拡大のための基盤づくりなど次のステップに向けた挑戦はまだまだ続きます。

# 東ティモールへの 想いを形に

一事業開始10年にむけて



## 1. 生産量の確保、買い付け、価格交渉

(長期的な支援を目指し事業拡大に向けた歩み)

コーヒーは豊作（表作）、不作（裏作）を一年ごとに繰り返す作物で、2011年度は不作の年となります。

日本での販路拡大には安定したコーヒー豆の供給が不可欠となるため、不作の年にはPWJが支援する生産世帯数を増やし生産量の確保に取り組んできました。

今年は、裏作に伴う生産量の確保の他に市場価格の高騰に伴う価格交渉にも力を注がなければなりません。これまで、生産者が長期的に安定した収入を得られるように生産者が加工したパッチメントをPWJが全量買い付けしてきましたが、今年はコーヒーの市場価格の高騰に伴い、大規模コーヒー会社が盛んにPWJが支援してきた生産者に買い付け交渉を行っています。大手買い付け業者は、市場価格が高い不作の年にだけ積極的に買い付けを行いますが、豊作の年には見向きもしません。

自前の利益だけを求めて大手買い付け業者に売るのではなく、豊作の年も不作の年も継続的に全量買い付けを行って来たPWJに販売してもらうように、東ティモール現地スタッフが生産地を駆け回っています。東ティモールのコーヒー事業の自立の為に、収穫量を確保し、安定した供給を目指しています。

## 2. 品質の維持（品質を保つ体制づくり）

これまでPWJが行ってきた技術指導により、コーヒー専門家の方にも「スペシャルティコーヒー」と評価していただける品質になったピースコーヒー。有名な自家焙煎店を始め多くの方々にお楽しみいただけるコーヒーを作ることができるようになりましたが、品質の向上には様々な努力の積み重ねがありました。

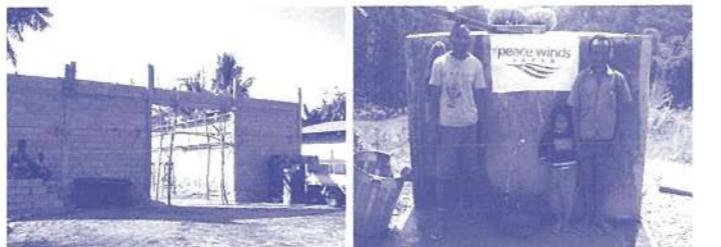
コーヒーの加工工程では大量の水を使いますが、標高1400～1700mの山間深くに位置するコーヒーの生産地・レテフォホではこの水の確保が大変でした。このため貯水タンクの設置や簡易水道の整備などを行い、よりよい環境に改善してきました。

生産者の方たちが加工したコーヒー豆は首都・ディリにて脱穀され、その後近隣の女性たちによって品質を落としてしまう豆（欠陥豆）を取り除く作業が行われます。この一連の作業を早く行って輸出までスピーディに行うことが品質管理には大切ですが、脱穀所は複数の団体で使っていることもあり、PWJの希望通りに作業が進められないことがこれまでにもありました。そこで今年は新たに選別する作業棟を作っています。この作業棟ができることでスムーズに選別作業をすることができ、コーヒー豆も品質を維持したまま日本に輸出することができます。

現地では、品質に対する意識の違いもありますが、欠陥豆を完全に取り除くために作業工程の改善、チェック体制の強化などをを行い、美しい豆だけを輸出できる工夫を重ねています。

昨年は異常気象により収穫やパッチメントの乾燥がうまくいかず品質管理に悩まされることもありましたが、輸出までの

一連の作業をもう一度見直し、生産量が増えても品質を落とさず出荷できる体制を作り上げています。



## 3. 今後の展望：次世代リーダーの育成

PWJの東ティモール事業では現在、日本人スタッフ1名と東ティモール人スタッフ3名が働いています。これまで日本人スタッフが現地事業責任者としてコーヒーの生産、収穫、管理、輸出などの作業を統括していましたが、今年から東ティモール人のスタッフが現地事業責任者として指揮をとり、日本人スタッフはそのサポートを行っています。

東ティモールではまだまだリーダーが不足しています。自ら計画を立て、管理し、事業を運営していくという事をこれまで行った経験がない人が多く、外国人の下で働く人がほとんどです。独立から年月は経ちましたが、本当の意味での国づくりはまだ始まったばかりのこの国にとって、方向性を定め、周りをけん引するリーダーの育成が必要不可欠です。誰かに言われた通りのことをやるのではなく、自ら考え行動する人がこの国を変えていく。9年にわたり活動してきてPWJが感じたことです。

今年から責任者になつたロビン・ジョンは海外生活が長く、日本に留学した経験もあり、東ティモールの発展のために日々汗を流し、この事業の成功に向けて努力しています。



## コーヒーに込められた生産者の想い

2003年から始まったコーヒー生産者支援は今、農民各々がコーヒーバイオニアの一人であるという明確な意識のもと、自発的に彼らの未来を切り拓く段階へと発展しています。

着任直後の5月初旬、初めてコーヒー生産の現場であるレテフォホ郡を訪れたとき、そこには会議の中でコーヒーの収穫や品質について議論を交わす農民たちの姿がありました。不作年の収穫期を目前に、品質の徹底管理を提案する人や、経験豊かなリーダーに教えを乞う若い生産者の姿など、コミュニティ内で活発な会話が自然に生まれ、お互いを助け合う姿が印象的でした。

ある農民はこう語ってくれました。「ポルトガル植民地時代は、私も含めたコーヒーバイオニアはコーヒーの品質に絶対の自信を持っていました。インドネシア支配時代に一度は品質に対するこだわりを失いかけましたが、ピースウィンズの支援のおかげで、私たちは過去の誇りを取り戻すことができました。感謝の意味を込めて、日本の皆さんには良質のコーヒーを届けたいのです。」

東ティモールコーヒーに込められた生産者の人々のこうした想いを、日本で応援して下さる皆様へお伝えしていきたいと思います。

東ティモール駐在・吉永栄一

## 東日本大震災 被災者の復興支援

### 東日本大震災から半年。東北はいま

PWJは、被災者の状況やニーズの変化に合わせて、緊急支援から復興支援へと、活動の重点を移してきました。

#### ●仮設住宅への生活用品の提供

4月上旬より、岩手県の仮設住宅、応急仮設住宅、雇用促進住宅、さらに県が家賃を負担する民間住宅に入居する被災者世帯に生活用品（食器や寝具など）を配布しています。8月中旬までに、約8500世帯、23,000人の方々に配布を行いました。

#### ●子どもを取り巻く地域社会への支援を通じた心のケア

週末に仮設住宅や避難所にて子どもたちが安心して気持ちを発散しながら楽しく安全に遊べる場を提供する、アート＆スポーツキャラバンを気仙沼市と陸前高田市を中心に関開しています。キャラバンの一角にはお年寄りや保護者の方々が歓談するスペースを設け、PWJスタッフ（ソーシャルワーカー）や協力いただいている専門職（医師など）と一緒に、震災後の子どもの行動変化について相談できる場を提供しています。

#### ●漁業組合のサポートを通じた経済復興

南三陸町の漁業復興のため、南三陸町の歌津漁協と志津川漁協への支援を行っています。海底調査に必要な器材提供や、わかめの養殖支援などを通じて、漁業復興を本格化させています。



漁業支援のヒアリング

#### ●地元の人びとの生計支援

大船渡市にて、仮設入居者などに対して地元のスーパーなどで使える地域商品券の配布を実施しました。また、陸前高田、南三陸町でお店をなくした方に対する移動販売車の提供、仮設店舗の立ち上げへの支援をはじめとした、地元の経済復興への支援を行っています。さらに大船渡でも魚市場再開のための支援などを実施しています。

## PWJの活動にご協力ください

\*認定NPO法人のPWJへの寄付は、税金控除の対象になります。

#### 【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

\*特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（東日本大震災の場合）はその旨を）を明記してください。

#### 【銀行口座】

##### ●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名：三井住友銀行青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

##### ●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名：三井住友銀行桜新町支店

口座番号：普通 6723184

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

\*領収書が必要な場合などはご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書は発行いたしません。

## 東京事務所移転のお知らせ

PWJは、東京事務所を港区南青山から、千代田区の九段南へ移転します。9月5日(月)より下記住所にて業務を開始します。アクセスは、地下鉄市ヶ谷駅（南北線、有楽町線、都営新宿線）A3出口より徒歩1分。JR市ヶ谷駅からは徒歩5分です。  
※フリーダイヤルとE-mailアドレスは変わりません。

T 102-0074

東京都千代田区九段南 4-7-16 市ヶ谷 KTビル I 5F

TEL 03-5213-4070(代表) FAX 03-3556-5771

※9/3までは、TEL03-6438-9401、FAX03-5786-7781

※9/5からは、TEL03-5213-4070、FAX03-3556-5771

フリーダイヤル 0120-252-176

E-mail meet@peace-winds.org



## 災害救助犬育成事業の特設サイトがオープン



広島県神石高原町で行っている災害救助犬の育成事業に関するサイトがオープンしました。ツイッター、FACEBOOKも始動し、最新の情報を発信しています。  
<http://www.peace-winds.org/jp/jinseki/index.html>

## 東京・広尾で東日本大震災支援活動報告会を開催

7月27日に、PWJの東日本大震災に対応した支援活動の報告会を行い、多くの方にご参加いただきました。東北事業に携わるスタッフによる現場の報告を中心として、東北被災地の方からのメッセージや、PWJの世界の支援現場からの応援メッセージなどの動画も上映しました。



・4/8 日テレ「news every.」にPWJ 松田が出演

・4/8 每日新聞「論点」に代表理事大西のコメントが掲載

・4/20 FM「J-WAVE」にPWJ 角免がコメント出演

・4/23 よみうりテレビ「ウェークアップ！ぶらす」に代表理事大西が生出演

・5/10 雑誌「中央公論」に代表理事大西の対談記事が掲載

・7/1 RCC中国放送にて、広島でのPWJ 災害救助犬育成事業が紹介される

・7/15 テレビ東京「地球 VOCE」にて、東ティモール事業が紹介される  
藤原紀香さんが PWJ 支援地でコーヒー生産の様子を視察、PWJ 吉永が出演

・8/2 PWJ 西野が、毎日小学生新聞「仕事発見！NGO職員」に掲載

・8/5 JICA ニュースに、元協力隊員スタッフ・公地と西城が紹介される

メディア  
掲載報告  
(一部抜粋)